

第４回 岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会

日 時：平成 28 年 3 月 9 日（水） 15:20～17:10
場 所：東北地方整備局青森河川国道事務所 大会議室
委 員：【欠席】東 委員 委員長（弘前大学農学生命科学部生物学科 准教授）
泉 委員 委員長代理（弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 教授）
南 委員（八戸工業高等専門学校建設環境工学科 教授）
【欠席】石岡 委員（岩木川漁業協同組合 代表理事組合長）
長崎 委員（青森県産業技術センター内水面研究所 調査研究部長）
【欠席】花田 委員（弘前市上下水道部長）
石塚 委員（東北地方整備局青森河川国道事務所長）
鈴木 委員（加藤委員代理）（東北地方整備局津軽ダム工事事務所長）

～ 議事要旨 ～

①アユの産卵床を含む瀬・淵の再生・保全対策について

- ・アユの産卵場所として必要なのは、ある程度の深さと速さと思われる。
- ・河床耕耘は、実施時期の問題があるのであれば、年 1 回でなくて、ある程度継続的にしていた方が効果は上がる。
- ・アユの遡上は、大きく良いときと悪いときが激しくて、海の環境とか、去年の産卵時期の状況だとか、いろいろ影響してくる。
- ・河床耕耘の継続は、よりよい岩木川を目指していきたいということの思いを共有できる人たちが集まって、よい環境を次の世代に残していくのだという目的意識の中で、参加の輪を広げていきたい。
- ・モニタリングを 3 年間続けることは、非常によい。どうしても川、元の川の形に戻りたがるので、モニタリングですぐ戻ってしまうような場合は、次の計画に反映していくような形でお願いしたい。
- ・アユが産卵するためには、水深と速さも重要だと思うので、現地用流速計の観測を追加して頂きたい。河床から 5～10cm ぐらいの実際にアユがいるところの 1 点で良い。

②弘前市上水道取水堰周辺における遡上環境の改善策について

- ・水の流れが連続すればよいので、考え方は問題ない。

以上